

大阪錦繪新話

笹木芳龍

女義大夫が来て奥行世におあきと良我大夫よりうつぬて又兵五へ素直な
 女房とたきさりに出奔の色して横濱でかあさんと三人りふは追々金もつひきて
 諸事不都合なるにつけおのま心算して衣類品の持出し行下し
 孫又兵五へ親類も少く銭もあつせんさきよ東京で人力車馬居り
 細は残り女房へ夫が出り其見りあきさるも今一度夫と逢ふこと
 一通は家業指出しとてうけとまき年さあまきさる人とおくし
 婚とりの嫁入とせぬと近所の人々もめ言葉を耳まらひ
 一度六年ひら身のため夫が帰宅あることまきとたのし
 風のたより又横濱でくはして居る聞かぬ直
 其儘身して旅立色して横濱とせせ跡も
 うもあつせんさきよ東京の浅草寺
 参詣し門前居る車やと身も
 夫とあきさるの優曇花の
 嫁とりの専主へ浮氣又家名
 とあきさる夫とあきさる立派な着
 ざり夫婦づき歸国せしひらき
 真女やいん美婦とやいん



阿波文板

大阪錦繪新話1号 文庫10-8067-1

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

